

# (6) 笠間市にオーナー制の新農園

農園の  
総面積は  
二千㎡あ

するわけだ。

## リゾート気分も満喫

栽培する野菜は一年を春、夏、秋の三期に分け、それぞれの季節に合った野菜を植え付ける。春なら大根やジャガイモ、小松菜や春菊など。夏には枝豆や里芋。唐辛子やピーマン。秋は白

るようか。  
「笠間に気軽に来て、畑を耕したり、青空の下でのんびり過ごしてほしい。リゾート感覚の農園にしたいし、オーナーの方々との交流を何よりも楽しみにしている」と池田組合長は言っている。

野菜づくりや農家との交流に加え、笠間市には由緒ある神社や寺院、美術館、博物館など見るべきものがたくさんある。笠間はまた、陶芸の町でもあり、買い物だけでなく、自分の手で作ってみることもできる。リゾート気分がふんだんに味わえる。

# 農作業は農家にお任せ

ブームもいつかは峠を越す。市民農園花盛りの昨今だが、このままのペースで増え続ければ、遠からず供給過剰に陥るとの声も出始めた。これからは利用者による選別が進み、人気のあるところとそうでないところの差がはつきりしてくるだろう。いわば、利用者をいかにして取り込むかという競争の時代に入る。茨城県笠間市に開設した「あいあい農園」は、そうした傾向に対処した、従来型とひと味違う農園として注目されている。

人気が高い。あいあい農園は、いわばその野菜版。果実のオーナー制度にない魅力をいくつか用意している。

菜やキャベツ、みずな、ホウレンソウといったように色とりどり。種類は二十種を超す。オーナー一人当た

農園の年間利用料は年六万円。ロッジやゲストハウス、人工温泉やサウナ風呂などを備えた施設に優待料金で利用できるほか、「笠間市特産のクリなど季節の産物のプレゼントも受けられる。募集してから、既に三区分分の利用者が決まった。

あいあい農園は笠間市で二番目に高い吾国山のすそ野に広がる本戸地区に今年四月下旬、開設した。すぐ隣に、関東地方のトップを切ってオープンした宿泊施設付の市民農園、笠間クラインガルテンがある。同ガルテンは一区画が三〇〇㎡、合計三〇区分ある本格的な農園で、十年の歴史を持つ。



ひとりで植えるより、大勢でやる方が楽しい

たたりで大根だけで二十本前後の収穫になるといふ。作付けの大半は組合側で予定を組むが、一部はオーナーの希望を採り入れることにしている。

小さい方の畑はオーナーの自由栽培区画。農家の人に全部任せてばかりでは満足しない人も多いだろうと組合側は考えた。オーナーの栽培チャレンジ・コーナーとでも言え



農家の人から種まきの要領を学ぶ

### ☆ 農家との交流主眼に

「あいあい農園」の事業主体は南指原管理組合だが、実質は笠間市役所との共同事業である。農政課農政企画室の深澤充係長、森望主幹の両氏に農園開設の目的などを聞いてみた。

「あいあい農園」の事業主体は南指原管理組合だが、実質は笠間市役所との共同事業である。農政課農政企画室の深澤充係長、森望主幹の両氏に農園開設の目的などを聞いてみた。

開設の動機や目的は、**深澤** 十年経ったクラインガルテンの運営は順調で、一区切りついた段階。そこで、市民農園の新しい展開をはかることにしました。地域農家からは都会の人ともつと交流したいという声が高まっています。そうしたニーズにに応えたいと

**深澤** 千葉県君津市で民間企業が手掛けていると聞いたことはありますが、自治体間ではおそらく初めてでしょう。  
 —農園事業は農家のビジネスとして成り立つのでしょうか。  
**森** 無理でしょうね。三区画すべてが埋まっても、年間利用料は百八十万円。種代などの経費や管理費を勘案すると、農家にはいくらも残らない。それより都会の人と交わり、お役に立つということでも生き甲斐が生まれる。その効果の方が大きいと思います。  
 —利用者の居住地域と年齢構成はどうなっていますか。  
**深澤** 東京、神奈川、千葉、埼玉の各都県と茨城県に住む人たちです。農業の盛んな茨城県内の人が意外と多いのには少し驚いています。  
**森** 年齢構成は三十代から六十代までまちまちです。市民農園の経験者もいますし、子供の教育にもなると言って申し込んだ三十代の若い夫婦もいます。若年層の利用が思っていたより多いのは心強いです。

—自由栽培区画のスペースは狭すぎませんか。  
**森** 土に接する傍ら、笠間の観光や田舎暮らしを楽しんでもらうというのが主眼ですから、畑はあまり広くする必要がないと考えました。野菜作りをもっとしたいと希望するオーナーには別の対応をするつもりです。  
 —農作物の収穫量は天候などの影響で大きく左右されます。不作の時、オーナーに何か見返りを用意するのはですか。  
**深澤** 基本的には補償しません。不作がひどい状況なら野菜以外のものでも報いたいと考えています。  
 —田舎暮らしを楽しんでも



農家側の心づくしの昼食を楽しむ

らうためには、どのような催しものをするのですか。  
**森** まだ検討段階ですが、例えば七夕祭りや蛍狩り、ブルーベリージャムづくり、収穫祭などいろいろあります。  
 —東京電力の福島原発事故が応募に影響を与えていますか。  
**深澤** ないと言えば嘘になるでしょうが、我々が心配したほどではありません。それよりも農園の広報宣伝活動を積極的に展開していきたいという気持ちが強いのです。